

新酒の季節がやってきた！



Qもともとボジョレー・ヌーヴォーって、なんで始まったの？

一昔前、フランスではその年のワインの解禁日は一律で12月15日と定められていました。しかし早生するガメイ種で造るボジョレーのワインは「もっとフレッシュなうちに楽しみたい！」とボジョレー地区で反発運動がおこり、「ボジョレー地区のワインだけは11月15日に解禁して良い。」とワイン法が変更されました。しかしそこで問題が。日にちを定めると、毎年曜日が変わります。そうすると、年によっては日曜日になってしまうわけで・・・「なんで日曜日に働かなくちゃいけないんだ！」と、運送会社やレストランは仕事放棄・・・なんてことも。それではせっかくの新酒が楽しめません。というわけで、1984年、今の「11月第3木曜日」に落ち着いたわけです。なんとフランス人らしいエピソードですね。

ボジョレー・ヌーヴォーの解禁を祝う現地での様子。サラミまで用意されていてなんと羨ましい♪



Q山梨ヌーヴォーとは？

山梨ヌーヴォーとは日本が誇る固有品種、「甲州」と「マスカット・ベリーA」で造られたワインのことを指し、2008年に11月3日が解禁日として定められました。

「甲州」は奈良時代から平安時代にかけてヨーロッパからシルクロードを通して日本に伝わったとされています。2010年には日本固有のぶどうとして初めて国際ぶどう・ぶどう酒機構(OIV)に品種登録され、現在ドイツのラインガウ地方でも栽培されています。

「マスカット・ベリーA」は新潟で川上善兵衛が日本の風土にあったブドウを品種改良の末に造り上げたブドウで、アメリカ系のベリー種とヨーロッパ系のマスカット・ハンブルク種の掛け合わせによって生まれました。

甲州種に続き2013年に国際ぶどう・ぶどう酒機構(OIV)に品種登録され輸入ワインのラベルにブドウの名前を記載できるようになりました。

この二つの代表的な日本ブドウの収穫を祝うのが「山梨ヌーヴォー」というわけです。



毎年日比谷公園で開催されている「山梨ヌーヴォーまつり」。